

2. 拡大ワークショップの企画開催

(1) 開催の目的

拡大ワークショップは、平成 18 年度から蓄積してきた地域主体によるボトムアップ型の多様な活動、これらを通じて得られた知見等の成果を振り返るとともに、半島地域における担い手育成や事業創出に活かす形式知として共有し、半島地域全体の底上げを図ることを目的に、企画・開催した。

平成 26 年度は、平成 17 年度に施行された半島振興法の改正時期にあたる。現・半島振興法のもと、半島振興室では実証的手法を用いて地域の多様な団体・人材を地域活性化の担い手として発掘・育成し、トライアルの中から新しい地域活性化につながる事業の創出・自立化を促進してきた。この結果、この 10 年間で全国の半島各地にさまざまな団体、活動が育ち、中には全国的に注目・評価されている団体もある。また一方で、各地で新しい担い手、取組も出現してきている。拡大ワークショップでは、こうした新旧の担い手間の交流を促すことによって、相互の取組から学びや刺激を得るとともに、それぞれが抱える地域課題の解決ヒントを得たり、協働・連携の可能性につなげるなど、活動の強化・飛躍のきっかけをつくることを企図した。

さらに、半島振興室では平成 23 年度から毎年、「半島のじかん」と称したイベントを開催してきた。半島振興の意義や半島地域の魅力について半島の外に発信・普及し、主に都市と半島の交流・対話を促進するねらいから、コミュニケーションデザインの手法を取り入れ、関心を喚起するためのさまざまなツールを制作してきた。これらは半島を知らない都市ユーザーに訴求し、関心の喚起、認知に一定の役割を果たした。今回の拡大ワークショップでは、現地の実践活動を集大成する作業にあわせ、あらためてこれまでの制作を展示し、今後の半島から半島外への魅力発信のあり方について検討することとした。

(2) 開催概要

拡大ワークショップ「半島のじかん 2005-2014 in TOKYO」は、下記の要領で開催した。

○開催日	2015 年 2 月 28 日（土）、3 月 1 日（日）
○会場	東京・有楽町 GINZA FARMERS LaBo（銀座ファーマーズラボ）東京交通会館
○主催	国土交通省国土政策局地方振興課半島振興室
○後援	半島地域振興対策協議会、半島地域振興対策議会議長連絡協議会、全国半島振興市町村協議会
○プログラム概要	●【2/28】半島らしい地域づくりワークショップ 半島の風土、自然環境、歴史文化、暮らしを活かした地域振興の実践現場から、半島における地域づくりの知見を学び、課題解決の方法、今後の半島地域づくりのあり方を検討した。 ①平成 26 年度半島振興プロジェクト成果報告会

	②半島らしい地域づくり優良事例・奨励事例報告 ③半島ネットワークに関する意見交換 ●【3/1】共感を呼ぶ半島コトモノづくりワークショップ 地域づくり活動を自立・持続し、地域活性化につなげるために、活動の意義、地域や商品の魅力、自分の想いを伝え、理解・共感を得ることが重要であることをふまえ、[伝える・共感を得る]ための方法を、ケーススタディ等を通じて学んだ。 ①半島のじかんと振り返るー都市と地域のコミュニケーションデザイン ②半島ゲストトーク ③半島のコトモノプレゼンテーション ④全体総括(振り返り) ●【両日】半島のじかん 2005-2014 in TOKYO エキシビション 商品パッケージや半島ノートなど、過去3回開催された「半島のじかん」の制作物の展示
--	--

○登壇者	●【2/28】半島らしい地域づくりワークショップ ①平成26年度半島振興プロジェクト成果報告会 1)「半島担い手強化プロジェクト」 ・薩摩地域「特定非営利活動法人 坊津やまびこ会」 ・紀伊地域「E F. J p」 ・能登地域「能登島地域づくり協議会」 2)「半島間連携チャレンジプロジェクト」 ・丹後地域「琴引浜まんまくらぶ」 ・渡島地域「江差いにしえ資源研究会」 ②半島らしい地域づくり優良事例・奨励事例報告 ・渡島地域「江差歴まち商店街協同組合」 ・津軽地域「企業組合 での・そーれ」 ・幡多地域「まちづくりマーケットプロジェクト」 ・大隅地域「特定非営利活動法人桜島ミュージアム」 ・薩摩地域「特定非営利活動法人エコ・リンク・アソシエーション」 ・津軽地域「ワゲモノキャラバン隊」 ・能登地域「特定非営利活動法人のとキリシマツツジの郷」 ●【3/1】共感を呼ぶ半島コトモノづくりワークショップ ①半島のじかんと振り返る ・江戸川大学 社会学部教授 鈴木 輝隆氏
------	---

	②半島ゲストトーク ・株式会社コンタン 代表取締役 鈴木 正晴氏 ・株式会社サーチフィールド取締役 齋藤 隆太氏 ●【両日】半島有識者検討会（半島アドバイザー） ・法政大学 現代福祉学部 准教授 関司 直也氏 ・特定非営利活動法人 コミュニティビジネスサポートセンター代表理事 永沢 映氏 ・(株)プラネット・フォーまちづくり推進機構 中村 良三氏 ・東京農業大学農山村支援センター 中山 幹生氏
--	--

(3) 実施報告

●【2/28】半島らしい地域づくりワークショップ

半島の風土、自然環境、歴史文化、暮らしを活かした地域振興の実践現場から、半島における地域づくりの知見を学び、課題解決の方法、今後の半島地域づくりのあり方を検討した。

1) 平成 26 年度半島振興プロジェクト成果報告会

今年度の半島振興室実証事業「半島担い手強化プロジェクト」「半島間連携チャレンジプロジェクト」の実施団体から、それぞれプロジェクトの実施経過と成果、今後への継続発展の方針について発表を行った。これに対し、現地ハンズオン支援にあたった半島アドバイザーや会場の参加者等から助言等の発言が行われた。



2)「半島らしい地域づくり優良事例・奨励事例」報告

今年度は現在の半島振興法の改正の年にあたることをふまえ、これまでの現地実践型のモデル事業の成果・蓄積を集大成し、法改正後の新たな半島地域づくりに活かす知見として共有することを企図し、平成 18 年度「半島らしい暮らし・産業創生事業」以後 8 年間の実証事業の実施団体の中で、優れた団体を「半島有識者検討会」のもとで評価・選定した。

ワークショップでは、これらの団体代表者が登壇し、それぞれの活動や地域貢献の成果について発表を行った。

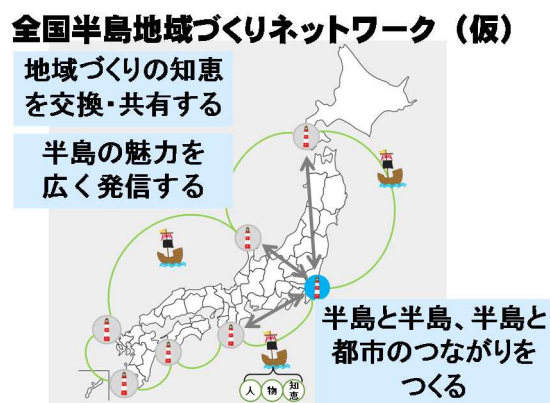
「半島らしい地域づくり優良事例」は… H18～22 半島らしい暮らし・産業創生事業 H23・24 半島地域の価値創出事業 半島地域に 「在るモノ」に 根ざした地域活 性化の試み H23～ 半島間連携チャレンジプロジェクト H23～ 半島担い手形成・強化プログラム	「事例」の評価基準は… ①活動の継続性、発展性 ②地域への貢献 ③半島特性、地域資源を活かした取組・価値向上 ④担い手の多様性と協力 ⑤革新性
さらに… 半島事業を通じて新しい取組が生まれ、高い成果を上げている 半島の「ひと・まち・しごと」の活性化につながっている 取組が半島広域に広がっている	「半島らしい地域づくり優良事例」
「半島らしい地域づくり奨励事例」	



3) 半島ネットワークに関する意見交換

「半島間連携チャレンジプロジェクト」の一環として、全国の半島地域づくり団体のネットワーク形成について研究してきた。これをふまえて、研究会メンバーからは全国の半島ネットワークの意義・必要性について問題提起があり、会場参加者を交えて今後のあり方について意見交換を行った。

この結果、知見や情報を共有したり、人的交流を可能とするゆるやかなネットワークの必要性についてはおおむね共有した。一方で、ネットワークの維持管理、各団体の活動に有効に機能させるための事務局体制、活動原資の必要性について指摘があり、引き続き検討していくこととなった。



●【3/1】共感を呼ぶ半島コトモノづくりワークショップ

地域づくり活動を自立・持続し、地域活性化につなげるために、活動の意義、地域や商品の魅力、自分の想いを伝え、理解・共感を得ることが重要であることをふまえ、[伝える・共感を得る]ための方法を、ケーススタディ等を通じて学んだ。

1) 半島のじかんを振り返る一都市と地域のコミュニケーションデザイン

・江戸川大学 社会学部教授 鈴木 輝隆氏

半島の概念、半島の魅力を都市部ユーザーに向けて発信する取組、発信作業に対してコ

コミュニケーションデザインの手法を導入した背景や課題感について紐解くとともに、デザインツールを活用することによって得られた成果、今後の半島概念の発信のあり方について、解説した。

トークの中では、情報の流通・消費のスピードがきわめて速い今日の社会で、半島という一般の人にわかりにくい概念に対する興味関心を喚起するために、優れたデザインを用いて一瞬で目を引くことの重要性が解説された。

また、「半島のじかん」によって半島全体のイメージ形成と発信に関するプラットフォームが立ち上がり、これに呼応して各地のさまざまな魅力が掘り起こされ、地域内外での評価に結びついていることをふまえて、今後も半島全体のブランディングや先進的な取組を推進しつつ、各地では地域に根ざしたきめ細かい取組を積み上げ、相互に連動することの意義についても問題提起がなされた。



2) 半島ゲストトーク

半島地域に限らず、地域づくり活動は地域を思う愛情や熱意のもとで行われているが、一部の担い手の頑張りで支えている事例も散見され、活動疲れや閉塞に陥りやすい構造にある。これに対し、活動が健全に自立・継続して地域活性化に役立つためには、活動や団体が周囲に正しく理解・共感され、さらに協力・支援等を得ることが不可欠である。半島地域には自分たちの想いを他者に伝えることに慣れていない団体も少なくなく、また、自身の理念や活動が整理できていないこともある。

地域や活動に対する理念、目標等を明確にし、かつ、これを他者に向けて伝え・共感を得ることは、半島地域における地域づくり活動の基盤強化につながる。このことから、本ワークショップでは「都市ユーザーからの共感を呼ぶ・訴求する」をきっかけに活動の基盤強化を図るねらいから、都市ユーザーに向けて都市と地方を結ぶビジネスを展開する企業人をゲストトークに招いた。

①株式会社コンタン 代表取締役 鈴木 正晴氏

「作り手と使い手をつなぐ」をミッションとした店舗「日本百貨店」を国内外に展開する鈴木氏からは、「日本百貨店」を舞台とした商品仕入れ・販売の紹介を題材に、「理解・共感」を呼ぶための考え方、取組に関するトークが行われた。

魅力ある商品をつくるためにユーザー起点で考える姿勢、小売店で取り扱ってもらう・選ばれるための情報整理の着眼点など、ビジネス面での重要なセオリーについて紹介された。また、多様な地域、商品が流通する中で、選ばれる・指示される・応援される＝共感を呼ぶために、人と人のコミュニケーションが大切であることが話された。



②株式会社サーチフィールド取締役 齋藤 隆太氏

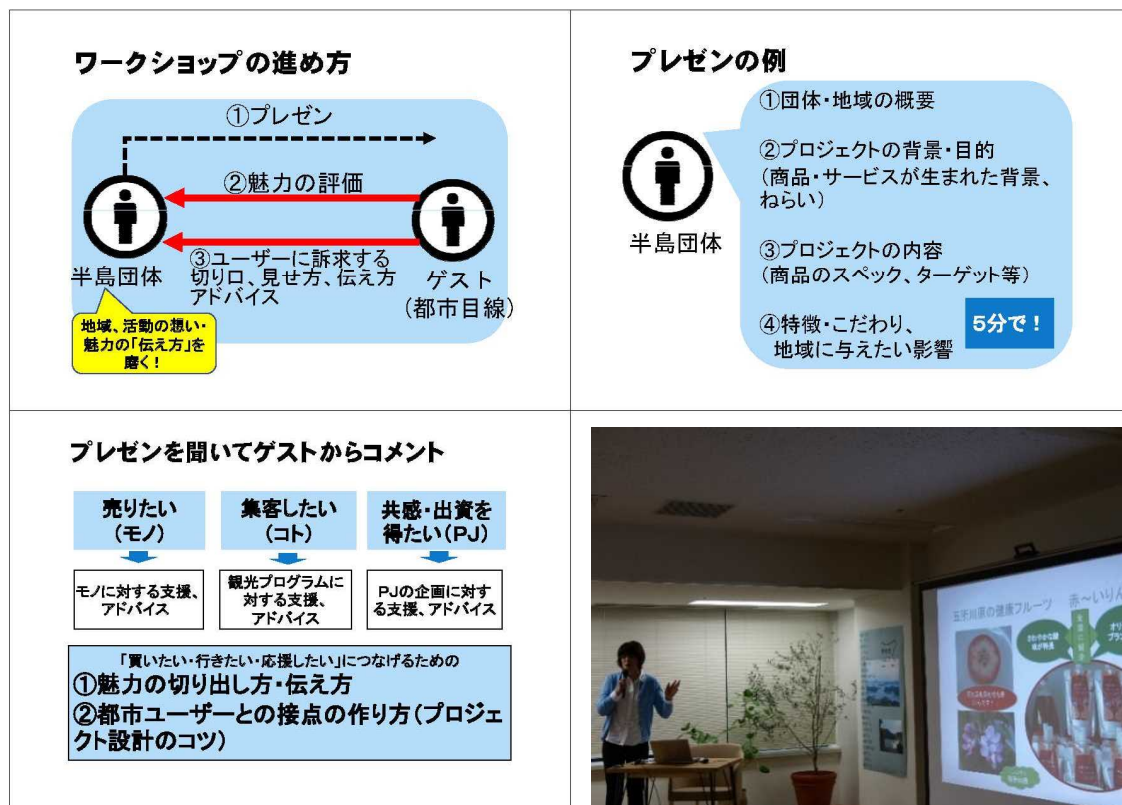
地元応援・地元密着を標榜するクラウドファンディングサービス「FAAVO」を展開する齋藤氏からは、「知ってもらうことって大切」というキーワードを切り口に、情報発信の重要性、都市から地方を応援してもらう取組、都市と地方の関係性づくりの重要性についてトークが行われた。

クラウドファンディングで多くの出資を集めたプロジェクトの組成・発展の事例、半島地域での実践例などをもとに、地域活性化のプロジェクトが共感・支援を集める際に気をつけること、プロジェクトをきっかけにした地域と地域出身者との関係性づくり、資金調達に限定しないクラウドファンディングの活用方法などが話された。



3) 半島のコトモノプレゼンテーション

半島地域の活動団体が自らの活動やプロジェクト、具体的な商品（特産品、観光プログラムなど）について「協力・出資を得る」「買ってもらう」「観光に来てもらう」ためのプレゼンテーションを行い、これをケーススタディとして、共感を呼ぶ・関心を喚起するためのブラッシュアップのあり方について、ゲストスピーカー等から講評・アドバイスを得た。



4) 全体総括

参加者全員で2日間のワークショップの振り返りを行い、共有した。

具体的には、各参加者からの宣言や提言として、「今日をきっかけに、こんなことをしていきたい」「半島について、こう思う」「半島らしさをこう活かそう」など、個々の活動さらに半島全体として推進・共有したいことについて紙に書き、発表してもらった。



5) 半島のじかんアーカイブス

過去3回開催した「半島のじかん」では、半島の概念、半島地域の魅力や価値を発信・普及するため、専門家の協力のもとで、コミュニケーションデザインの手法を用い、さまざまなツールを制作・展示、配布してきた。今年度は、アーカイブスとしてこれまでの成果を一堂に集め、展示した。



(3) 拡大ワークショップ 制作・展示

① 広報フライヤー

渡島半島

積丹半島

津軽半島

下北半島

男鹿半島

南房総半島

能登半島

伊豆中南部半島

紀伊半島

丹後半島

島根半島

江能倉橋島半島

室津大島半島

佐田岬半島

幡多半島

東松浦半島

北松浦半島

島原半島

西彼杵半島

宇土天草半島

国東半島

大隅半島

薩摩半島

半島の
じかん
2005-2014 in TOKYO



日時 2015年2月28日|土|、3月1日|日|

時間 28日|13:00—18:00 1日|10:30—16:00

場所 GINZA FARMERS LaBo 銀座ファーマーズラボ

主催 | 国土交通省国土政策局地方振興課 半島振興室

後援 | 半島地域振興対策協議会 半島地域振興対策協議会議長連絡協議会 全国半島振興市町村協議会 (予定)



もういちど、半島の足もとを見つめる。

現行の半島振興法が施行され、今年3月で区切りの10年を迎えます。
その歳月、それは、「半島の豊かさとは何か？」問い直し続けてきた10年でもありました。
都市の利便性や経済性を追いかける従来の発想ではなく、
半島の足もとを丁寧に見つめ、それぞれの半島らしさとは何か、
その宝とも言うべき資源をどう活かせば地域の活性につながるのか…
そう問い続けた結果、半島各地ではさまざまな挑戦や実践が生まれました。
この10年は、さらなる飛躍へ、半島の大きな一歩であったと言えます。
そこで今回の「半島のじかん2005-2014 in TOKYO」のテーマは「原点回帰」です。
半島振興法の節目にあたる年に、これまでの積み重ねをしっかりと糧とするべく、
それぞれの半島地域の10年を振り返り、シェアしたうえで、これからの半島の在り方、
可能性を模索していきたいと思います。半島の飛躍の10年へ、
誇れる未来につながる新しい発見や絆が、この“じかん”から生まれることを願っています。



半島の 次の 10年へ。

半島のじかん2005-2014 in TOKYOプログラム

2/28 sat. 半島らしい地域づくりワークショップ

半島の風土、自然環境、歴史文化、暮らしを活かした地域振興にまつわる数々の取り組み…
その現場に学び、半島の地域づくりの明日を語り合います。

13:00—16:00 | 平成26年度半島振興プロジェクト成果報告会
16:00—18:00 | 半島らしい地域づくり交流

3/1 sun. 共感を呼ぶ半島コトモノづくりワークショップ

半島の個性に根ざした地域づくり・モノづくりの想いを、いかに多くの人へ伝えていくか…その極意を学び、磨きます。

10:30—16:00 | 共感を呼ぶ半島コトモノづくりセッション
ゲストスピーカー | 鈴木 正晴 (株式会社コンタン代表取締役、「日本百貨店」総合プロデューサー)
齋藤 隆太 (株式会社サードフィールド取締役、地元応援型クラウドファンディング「FAAVO」事業部責任者)

半島のじかん2005-2014 in TOKYOエキシビジョン

半島のじかん アーカイブ展

商品パッケージや半島ノートなど、過去3回開催された「半島のじかん」の制作物をご覧いただけます。

※「半島のじかん2005-2014 in TOKYO」は入場無料です。ただし、座席に限りがあるため、下記まで事前にお申込ください。また、時間は変更になる可能性があります。

参加予約・問い合わせ先
「半島のじかん2005-2014 in TOKYO」実行委員会事務局 株式会社アー・ピー・アイ
TEL | 03-5212-3411 FAX | 03-5212-3414 E-mail | hanto@rpi.co.jp
Facebookページ「半島を行く」<https://www.facebook.com/joinhanto>

場所 | GINZA FARMERS LaBo (銀座ファーマーズラボ)
東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館ビル6階
JR山手線・京浜東北線「有楽町駅」京橋口・中央口より徒歩1分



半島関連イベント、 都内でぞくぞくと。

「半島のおすそわけin 秋葉原」

日時 | 3月23日 | 月 | ー | 4月5日 | 日 | 11:00—20:00
半島の人が半島の素材でつくった半島育ちのこだわり商品が並びます。

場所 | 日本百貨店しょくひんかん 東京都千代田区神田練馬町8-2
JR山手線・京浜東北線「秋葉原駅」より徒歩5分
主催 | 全国半島地域づくりネットワーク



②アーカイブス展示

半島のじかん 2005-2014 in TOKYO
「半島のじかん 2011 in Tokyo」パネル
W297×H420mm



半島の
じかん
2011 in TOKYO

ようこそ、
半島へ。

日本の端に、日本の先を見つめる。

豊かに暮えられた魅力的な資源を武器に
半島の人々が各地で展開する、自らの取り組みを発信したい。
取り組みの中で得てきた知識や情報を交換し、今後の活動に活かしたい。
そして、新たに都市の側からの視点も加えて議論したい。
半島と都市の人々が一堂に会し、半島を聞かれ、考えを深める場として、
2011年11月「半島のじかん」は東京で扉を開きました。
第1回のテーマは、「半島を認識し、認知し、共有する」。
半島の現在と未来を考えるセッションプログラムとともに、
半島のイメージを可視化していくデザインプロジェクトが行われ、
半島のロゴ化や、23半島の基本データとエピソードをまとめた
「半島ノート」等を制作。半島への最初の入口として、
深い知識や漠然としたイメージが好奇心を妨げないよう、
興味をより深い関心へと導く取り組みに挑戦しました。



半島の
じかん
2005-2014 in TOKYO

半島のじかん 2005-2014 in TOKYO
「半島のじかん 2013 inTokyo」パネル
W297×H420mm



半島の じかん

2013 in TOKYO

半島は、ひとです。

半島と話そう。

2013年2月、2回目の開催を迎えた「半島のじかん in TOKYO」。北は北海道から南は九州まで、全国の半島を丁寧に取り扱い、そこで出会った個性豊かな「ひと」を主人公にした展覧会となりました。会場内では、通称して「半島とひと」と題した小冊子を無料配布。代々受け継がれてきた伝統の漁法を守り今日も海に出る漁師や失われつつあった景勝を守りたいと取り組みを続ける若者たちなど写真家が全国の半島を飛び回り、ファインダーに収めた等身大の「ひと」の姿を通して、半島の多様性や豊かさを象徴的に浮かび上がらせる新しい試みに取り組みしました。また、半島の「ひと」と都府の「ひと」がもっと対話を重ねることで新しい発見や活力が生まれるのではないかと、これからの社会を変えるコミュニティの在り方、新しいつながり方を考えるセッションプログラムも盛り込まれました。



半島の
じかん

2005-2014 in TOKYO

半島のじかん 2005-2014 in TOKYO
「半島のじかん 2014 InTokyo」パネル
W297×H420mm



半島の
じかん
2014 In TOKYO

半
島の
台
所

半島は、「ほうしょく」か。

2014年2月、3回目の開催を迎えた「半島のじかん in TOKYO」。

そのサブタイトルは、「半島の台所」。

会場を松屋銀座に移し、多くの方にとって身近な「食」を取り上げました。
飲食の時代と呼ばれて久しい日本。「和食・日本人の伝統的な食文化」が、
国連教育科学文化機関（ユネスコ）から無形文化遺産の登録を受け、
「我々にとって豊かな食とは何か？」半島の台所から見つめ直すべく、
福・山・里が息づく半島の食の豊かさを体感できる展示を中心に
さまざまなプログラムが展開されました。

また、開催にあたっては、半島の素晴らしい自然の恵み、息づく知恵と技を
凝縮して生まれた商品たちを、地域の誇りとしてしっかり発信すべく
パッケージのリニューアルプロジェクトを展開。

今回、その商品の一部を盛り込みましたので、
ぜひこの機会にお手にとってご覧ください。



半島の
じかん
2005-2014 In TOKYO